

勝山地区（南校下）座談会 議事要旨

○と き:平成 22 年 7 月 28 日(水)19:00～21:00

○と こ ろ:勝山市教育会館

○テ ー マ:第5次勝山市総合計画

○出 席 者:36名

◎第 5 次勝山市総合計画について説明(未来創造課)

◎都市計画マスタープランについて説明(都市政策課)

Q1	・平成 27 年春に新中学校の開校を目指す理由を聞きたい。
Q2	・新体育館を建設するために中学校再編を急いでいるように聞こえる。 ・校区別説明会の日程について、中学校から先に再編したいと言っているにもかかわらず、なぜ南部中学校区の説明会よりも成器南小学校区の説明会の日程のほうが先になっているのか？例えば、南小学校区から先に説明してしまうと、南部中学校区の説明会のときに参加者が少なくなってしまう恐れがあるのではないかと？私たちとすれば、先に中学校の説明を受けてからその後小学校という順序のほうが良いがどうか。
A1・2	・平成 27 年春に新中学校開校を目指すのは新しい体育館が必要だからではないかということだが、ある意味そのように聞こえてもやむを得ないという思いはある。率直に申し上げれば、小中学校の再編については、これから勝山の小中学校はどうあるべきかというところから議論が始まった。そこであり方検討委員会が立ち上がり3か月かけて、アンケートなどを取りながらいろいろと検討を重ねた結果、これからの小中学校の規模などはこうあるべきだという考え方が出された。これを出来るだけ早くより良い学校教育の環境整備を進めたいというのが素案の考え方である。ただ、そのような中において、小学校の再編と中学校の再編とではどちらが先かということについてはいろいろな面を考えて、やはりまずは中学校から先にとというのがひとつの考え方であり、先ほど説明を申し上げたところである。そういった中で、もうひとつ、市民のみなさんから要望が多い勝山市における新しい体育館の構想が出てきた。昨年、市民の各界各層が委員となった体育館のあり方検討委員会において協議を重ねた結果、先ほど説明したような中身の体育館が必要だという考え方になった。そこで、市としては学校の再編を進める構想と新しい体育館を整備するという考えとを一体的に進めるのが最も効率的であろうというのが今回の素案の考え方である。そして、国体を睨みながら、平成29年に新体育館を整備し、そしてそれまでの間に中学校を統合するというのが2つの必要とするものを一体的に進める最も望ましい姿であろうということで、この形でお示ししている。したがって、体育館が必要だからとか、国体を誘致するためだけに中学校を再編するなどという考えは毛頭ない。
A2	・校区別説明会については、それぞれの校区ごとに小中学校の望ましいあり方について小学校のことも中学校のことも議論していただくということである。日程については、各学校で日程を決めていただいた関係上このような日程になった。市のほうで意図的に日程を設定したものではない。
Q3	・南部中学校の場所に新体育館ということだが、周辺住民の理解は得ているのか？

Q4	<p>・説明の中で、私たちが期待を持っていた素晴らしい体育施設ができるということで喜んでいる。10月に県の国体準備委員会が立ち上がり、そこで競技種目が決定されると聞いている。そのような中で、勝山は早々とバドミントン競技会場ということで手を上げている。</p> <p>国体開催は平成30年で、従来の国体のあり方を見ていると、前年度には全国レベルの大会ということで、インターハイを開催する。その前には実業団とか中部日本ブロック大会とか大きな大会を開催し、競技役員および大会運営等のリハーサルを行っている。その点、1年のタイムリミットで本当に大会開催が間に合うのか。遡って考えるともう少し早い時期に開設ほうが良いと思う。</p> <p>もうひとつは、「福祉健康センターすこやか」ができるときに、健康づくりの拠点と聞いていたが、いざ始まってみるとそのような施設は何もできなかった。健康・運動器具も無いように聞いている。今回、このようなプランニングの中で、生涯スポーツができるとともに、健常者も弱者の方もいっしょに健康づくりができる施設にしてほしい。弱者の方は健常者とともにコミュニティーを構築したいと願っている。それにはスポーツ活動が一番良いということを行っている。</p>
Q5	<p>・小中学校を再編してしまうと子どもが結婚したときに勝山に住むことに対して不安を感じると思う。例えば鹿谷の奥に住んでいたとして、子どもが小中学校までバスで通わなければいけないような地域に果たして住んでいたいのだろうかと思う。例えば今の鹿谷小、荒土小、北郷小をそのまま中学校にして小中一貫という考えは無いのか？また児童数に合わせて教員の数が決められているのかどうかはわからないが、今の学校を残したまま児童数の多い学校と同じように平等に教育ができないかお聞きしたい。</p> <p>たとえ新体育館ができ、全国クラスの大会ができたとしても、子どもが残らなければ大会も呼べないと思う。企業誘致も無いと思うし都市計画も無駄になる。小中学校再編は反対である。</p>
A3	<p>・新体育館建設予定の南中周辺の住民への理解について、今の段階ではあくまでも素案なので、今後市民の皆さんと議論を深めていく中でその方向性が固まった段階で、地域住民の理解を求めていきたいと考えている。</p>
A3・4・5	<p>・何か新しい施設を造ることに決まったから用地交渉とか地域住民に理解を得るとか、今はそのような段階ではない。地区座談会等でまずその内容について皆様にご説明していきたいということである。新体育館の中身について、体育館のあり方検討委員会のいろんな取りまとめ、中間報告をいただいているのでそれをまず踏まえている。また、先般体育協会を中心にした市民の皆様による署名活動の結果として市長に要望書をいただいた。その中身も素案の中に取り入れたが、競技スポーツだけでなく、生涯スポーツなど市民の皆さんが気軽に利用できる施設、或いは既存の学校の校舎等も利用しながら、元気の出る体育館にしていきたいと思っている。</p> <p>市が提案している小中学校の再編は、勝山市の次代を担っていく子どもたちが、小中学校においてより多くの集団生活をする中でお互いに刺激し合いお友達と交流し合いながら、その子たちの可能性をより広い形で生み出し伸ばしていくなど、若干抽象的ではあるがそのような教育環境を整えていく必要があると考えている。</p> <p>中学校の状況を見ると、平成元年は1300人以上いた。それから今までで半分になっている。このままではどうなってしまうのかということから、平成16年度に小中学校の</p>

	<p>あり方検討委員会を立ち上げて協議を重ねてきた。勝山市の子どもたちにとってこれからはどのような学校が良いのだろうかということで、この再編の素案を出している。ただ、中学校を先に再編したいということは言ったが、小学校については地域に密着した形で存在しているので、これについてはもっと時間を掛けいろんな意見をお聞きしながら進めていく必要があると考えている。いずれにしても、小中学校の再編には反対という人もあると思う。そういったこともきっちり受け止めながら考えていきたい。</p>
Q6	<p>・学校再編について、少子化が続いているのでどの自治体も再編は考えていることだろうと思う。福井市や大野市には複式学級がたくさんある。福井県内では42の複式学級があり、大野には5つ、勝山には3つある。市民アンケートを見ると、複式学級で習うよりは大勢の中で習ったほうが競争力が付くという親の意見があるが、一人の先生が少人数の子どもをじっくりと教えるほうが私はとても良いことだと思う。</p> <p>大野市には平泉寺、三室、野向のような学校が5つあって、それぞれ10～15人ほどの先生がいて一生懸命教えておられる。いまこの人数を大規模にしてしっかり教えてほしいというのはわからないわけではないが、教育はそんなもんじゃないと思う。荒土小、鹿谷小、北郷小を1つの小学校にするとやっているが、現在のそれぞれ98人、96人、87人の児童数で十分やっていると。大野市や福井市がやっていないのにどうして勝山市だけが再編しなければならないのか？</p> <p>学校再編計画については、平成16年度から相当な時間を掛けて検討されてきたということだが、検討委員会の中に現場の教員が入っているのか？やはり、教育は現場の教員の意見をしっかりと聞いてほしいと思う。総合計画の中でもまちづくりなどの一般的なことは区長さんなどで考えてくださって良いが、教育に関しては、現場の教員の意見を聞いてしっかりやってほしい。先日、教育長は8月に入ったら教員との話し合いをしようと言っていたので、ぜひそれを足がかりにこの素案について現場の教員の話もしっかり聞いて検討していただきたい。</p> <p>・中学校のスクールバスについては、相当たくさんいると思う。部活がある子、普通の時間に帰る子、バスが10台も20台も用意できるのか。中部中学校の給食室、家庭科室だが3つの学校が集まって昼食できるような施設にはなっていない。そのような後のことも考えて現場の教員の意見を聞いて始めていただきたい。</p>
A6	<p>・複式学級では、先生方や支援員の方々は、工夫を重ねながら本当にしっかりとやっていただいていると感じている。小規模で少人数があるが故の良さ、家庭的である、目が行き届くという大切な良さもある。議論の分かれるところだが、1つの教室で担任の先生が2学年を同時に受け持つ授業の仕方が良いのか、それが正常なのかと言われると、それは少し違うのではないかと。複式学級のほうが通常の学級よりも良いのではないかと議論にまで発展していってしまう。先生方の努力でカバーしていただいているが、やはり学級ごとに担任の先生が授業を進めることが本来の姿だと思う。そのような意味で、方向性としては複式学級の解消に向けて取り組むべきだと考えている。規模が大きければ良いというものではないが、部活にしても、グループ分けをした活動をするにしても、あり方検討委員会のように中学校なら1学年4学級以上は必要であるという考え方はある意味常識的な考え方だと思う。これもいろんなご意見があると思うので、学校の先生のご意見は今後も聞いていきたい。</p> <p>なお、あり方検討委員会は、各小中学校校長会の代表者、PTA 関係者も入ってお</p>

	り、学校サイドのご意見も参考にした取りまとめになっている。
A4・6	<p>・新体育館の建設時期については、確かに期間的には厳しいものがあるが、29年の春までには完成して、プレ大会を平成29年度に開催したいと考えている。体育館の規模は、先ほど示したとおりで、約2か年の建設工事の期間がかかるであろうと考えている。逆算すると27、28年にかけての建設期間が必要になる。小中学校の再編と一体的に進める中で新体育館の建設場所については現在の南部中学校の場所に建設したいということなので、中学校再編が済んでから建設工事に入りたいと考えている。</p> <p>・スクールバスについては、部活動や土日における通学などすべてに対応できるように配置にしたいと考えている。</p>
Q7	<p>・先ほどの説明の中に、働く場がない、企業誘致が必要などの意見があるというお話があったが、この施設を造ることで有資格者を配置するとすれば必ず雇用が生まれてくる。そうすると学校が統廃合されることで教職員の人数が余ってくるとすれば、そのような部署に配置することができる。子どもから高齢者までいつ誰が行っても、スポーツしたり、遊んだり、交流したりすることができるライセンスを持った人を配置していただきたい。そうしないとせっかくの施設が生きてこないと思う。それが、いま総理府が進めているコミュニティ構築、厚労省が進めている健康体力づくりにとって必要なことだと思う。それに関連して、福井社会保険病院の存続が大きく盛り上がってきている。あくまでも1つのアイデアであるが、この新体育館施設でカウンセリングして、そのデータを福井社会保険病院に送り、健康体力づくりの指導を受ける。それによって福井社会保険病院の利用価値がさらに高まると思う。そうすれば、おのずと新体育館へのリピーターが生まれ、福井社会保険病院の利用者も増えてくるのではないかと考える。そのようなソフト部門も付け加えるのなら、このプランはうまくいくと思う。</p> <p>提案であるため特に回答は求めない。</p>
Q8	<p>・学校再編の素案についての考え、流れについては、わかりやすい説明をいただいたので理解した。個人的に言えば、学校再編と新体育館建設の2つの大きな課題を一体化して考えるということについては大きくなずいているところである。学校再編の素案に至るまでにはおそらくいろんな選択肢を検討されたときに、中学校を1つにするという手前の段階として2つにしたかどうかということも案として検討されたと思う。</p> <p>南部中学校下は、ここ何年もの間勝山で一番人口を集めてきた地域。その要因というのは南小学校、南部中学校という学校が近くにある、スーパーも近くにあるということである。「あなたはどこに住みたいですか？」という問に対して、学校や買い物場所が近くにあるということを最初に考えるのが一般的だと思う。この地域はそれを満たしており、勝山の中でも人口を集めてきた地域。</p> <p>いま中部中学校の場所に中学校を再編することになれば、その条件をあえて崩してしまうことになる。そのことについてはもちろんプラス面マイナス面あつてのことだと思うが、一旦、中学校を2校にして様子を見るということについての見解を伺いたい。</p>
A8	<p>・いきなり中学校を3校から1校というのは、あり方検討委員会でも協議されたということも聞いている。</p> <p>確かに、校長先生方との話し合いの中でも2校のほうが刺激し合うことができるのではないかと、しばらくしてから1校にするということでも良いのではないかと意見も出た。ただ、あり方検討委員会の考え方としてはどういった規模の学校が良いかと検討</p>

	<p>する中で、1学年4クラス以上の中学校が望ましい姿なのではないかということである。そしてそれを実現しようと思うと、2校よりも1校にまとめたほうが良いということである。また、仮に中学校について段階的な再編の形をとろうとすると、あまり間を置かずに1校とならざるを得ない。そうなってくると無駄なエネルギーを費やすことにもなるので、統合するならば1校という考え方が示されている。ただ、これも素案である。今後地区座談会やPTAとの話し合い、学校の先生方のご意見をいろいろお聞きしながら進めていきたい。</p>
<p>Q9</p>	<p>・勝山は日本一の教育環境を目指すというわかりやすい目標を掲げることはできないのだろうか。長期的展望に立ったまちの発展には人材作りが一番である。これにはだれも反対しない。具体的にいえば、例えばエコミュージアムをなぜ進めるのか？これは子どもの教育環境づくりにこれほど良いものは無いということである。身近なところで子どものころから、地元の歴史や自然環境などが体験できたり触れさせたり、子どもへの教材がふんだんにある。観光という観点ではなく、まずは未来へ育つ子どもたちがこのエコミュージアムでいろんなことを吸収して郷土愛を持ち歴史を学ぶということをするれば、良い子どもが育つと思う。</p> <p>日本一の教育環境をつくるということについて勝山で一番理想的な長期的展望に立った教育は何か。例えば、小学校も中学校も義務教育は昔は一緒に通った。上級生が下級生の面倒を見ていろんなことを学んだ。そのようなことが出てくるとすれば、本当に今、日本一の教育環境を目指すというならば、児童生徒数の数がこうだから統廃合するという考え方は情けない。勝山には教育環境にとって素晴らしい材料がたくさんある。そのためにもエコミュージアムを利用し、子どもにも十分体験させてやり育ててほしいと思う。</p> <p>再編を考えている人たちの気構えと、「日本一の教育環境を造るんだ」と市民みんなが思いながら、そのための再編を進めることが大切だと思う。少子化だから学校を再編するという考えは、消極的な話だ。</p> <p>教育という面をもっとアピールするようなことを総合計画の中に入れてほしい。</p> <p>提案であるため、特に回答は求めない。</p>
<p>Q10</p>	<p>・総合計画の10年先の話について、学校再編の話についても、人口流出が本質的にあることは認識している。10年の総合計画の人口フレームの22,254人は目標人口ではないという説明もいただいた。高齢化率も38%という話もいただいた。現在は26,400人ぐらいで、高齢化率は28%ぐらい。そのような現状の中で、10年先がこのまま推移するとそのようになる。総合計画の中には「小さくてもキラリと光る誇りと活力に満ちたふるさと勝山の実現」ということを明確にうたっているが、いま、勝山から流出している人口をどのように取り戻していくのか。つまり、10年後の勝山市の生き様、生き</p>

	<p>方はどういう具合に帰って来る人間を受け入れるのか。企業誘致による職場の受け入れ方、既存企業による新産業の展開というようなことをある程度市民に知らしめて、安心して戻って来られるまちづくりが必要だと思うので、このあたりの考え方を聞きたい。現に大型店の出店によって勝山市では商店街の崩壊というものが目の当たりに迫っている。ただ、勝山市役所周辺の中心市街地と言えるような部分はいまでも残っている。いま、総合計画に合わせて都市計画マスタープラン策定される視野の中に中心市街地をどうするかということも市民に知らしめて、市民を上げてまちづくりに取り組む、まちづくりは地域住民の力で進めるというような意気込みを示すべき。そのリーダーシップは</p> <p>行政だと思う。その2点について聞きたい。</p> <p>県立高校が2校から1校に変わる。その一方で養護学校設置ということもある。勝山市全体としては、今の子供が高等学校に行こうとしたときに、勝山市全体としては地元の高校をどう応援していくのか。今年の夏の県大会に出場している各学校の主力選手は勝山市の中学校出身が多い。これは、考え方によっては、勝山高校も甲子園出場も夢ではないというような市民応援団が必要なのではないかと。</p> <p>いろいろ話したが、回答がいただける分だけで良いのでお願いしたい。</p>
Q11	<p>・市長と語る会の中で、中学校再編の素案が決定するのが1年以内といていたが、結論が出たら終わりではなく、今後5年間で保護者の方との対話をたくさん持っていたいて、そこで出てくる問題についてしっかり対応してほしい。</p>
Q12	<p>・この素案が、最終的に決定されるのはいつなのか？また、決定者は誰なのか？</p> <p>・地域コミュニティセンターの中に児童センターが入ると、いまある児童センターはどうなるのか？</p>
A10・11	<p>・人口フレームの22, 254人は、これを目標にしているのではなく、統計的な手法で算定するとこのような数字になる。しかしながらこれを目標にするのではなくしっかりと対応していきたいということである。ひとつは勝山を魅力あるまちにして、流出する人口をどうやって抑えるか、そして都会に出ておられる方にどうやって勝山に戻ってもらえるか、さらに勝山に全く縁のない方でも勝山に来たいと思ってもらえるようなまちづくりをどのように進めるか、また、いかにして出生数を上げる政策を図っていくのかという3点を総合的に進め、人口のことについては取り組んでいきたいと考えている。しかしながら、この人口フレームについては過去50数年間にわたって計画の度に現実の数字、統計上の数字をはるかに超える目標人口を設定する中でいろんな計画を立ててきたが、目標人口の設定が大きいので勝山市は拡大するんだという前提のもといろんなまちづくりを進め、それが現実合わないということが出てきたのが事実。今回は、はっきりと統計上の数字はこうで、こういった議論を通じながら目標の数字をどこに設定するのかは今後の考えていくことだと思っている。したがって、この人数を目標にして政策を進めるというわけではない。この人口をしっかりと踏まえながら、どういったことが現実的に可能なかを考えていきたいということ、皆さんのご意見を伺いながらより一層その考えを強めているところである。</p> <p>・中学校の再編についていつごろまでに決めるのかということについて、この素案に添って中学校の再編を進めるのであれば、今後1年ぐらいの間にこの素案を進めるか進めないかの判断が必要になってくるのではないかとということである。</p>

	<p>また、もし進めるのであれば、27年までの5年の間に保護者の方たちと徹底的に議論し、どういう中学校にするのか、どのような教育内容にするのかをさまざまな課題に応えながら取り組むべきだと考えている。</p>
A10・12	<p>・素案の決定の仕方について、まずはこの素案を地区座談会やPTAを中心に将来の保護者も含めて話し合いを進めていく。また、市長への手紙などいろんな形でご意見をいただき、また市議会の意見も聞く。そのような中で、この素案の形がこのままで良いのか或いは手直しが必要かどうかをしっかりと検討・精査を重ねながら、第5次総合計画の中に小中学校再編というものをどのような形で落とし込んでいくかということも検討していく。そして、何らかの形で例えば中学校再編に係る委員会を作ることももあるかもしれないし、そして、最終的には住民の人が大方納得していただける一つの考え方がまとまるとすれば、市議会へご相談をさせていただき、市長が決めるということになると思う。</p> <p>・勝山高校の応援については、勝山高校オンリーになるので当然市民としては市の宝としてこれからもっと応援しなければいけないし、県としても1市1校ということで大事にさせていただくべきものである。その意味で勝山高校の中身の充実というものを強く要望していきたいし、なるものと期待している。</p>
A12	<p>・地域のコミュニティセンターができた後、今ある児童センターはどうなるのかについては、地域ごとの小中学校をコミュニティセンターとして活用していきたいと説明してきたが、現実に建設して間もない児童センター、児童館があるのが事実。学校、体育館、周辺にある児童センターなどの機能を含めた概念として提案している。もちろん、地区によっては、現在の児童センターもコミュニティセンターの一つの「機能」として複合的に使っていくという考え方であり、これからもし、その地区の小中学校が再編に参加することになった場合、その次の段階として地区ごとにお話をしながら進めていきたいと考えている。</p>
A (全体)	<p>現在、第4次勝山市総合計画の達成率も分析しているところだが、おおむね9割ぐらゐの達成率である。その中で、子どもをどう育てていくか、人口をどう増やしていくかは勝山市の大きな課題である。子育て支援については、子育て支援日本一を目指すということで保育料の軽減率は県下で1番であるし、さらに、都会では有料が当たり前の児童センター利用料が無料であるなど、その他勝山市の子どもたちだけが受けている恩恵がまだまだあり、このことは広報でもお知らせしているところ。</p> <p>子育て支援に関する施策についてはじゅうぶん進めていく。しかしながら、子育て支援、子育て環境を図りながらも、出生数は200人を切っているし、人口が減っているのは事実。それを食い止めるためには、産業支援や農林業など基幹産業の活性化ということになるが、これは10年の計画にとどまらず毎年いろんな新しい施策を組み立てている。例えば、4000人の方が市外に働きに出ているし、逆に勝山にも市外から2000人が働きに来ている。これのギャップを少しでも埋めようと企業誘致などを図ってきたが、全体としてまだまだ十分ではない。大型の企業誘致だけでいいのかということで、中心市街地で商業店舗を出店する際の補助金などのメニューを今年は新たに制度化した。さらには、ミスマッチのない産業支援をしようということで、意見交換の中から、今年は従来からある企業のものづくりへの支援をしようということで始めさせていただいている。できることから、また皆様のご意見をいただきながら新しい</p>

10年間の計画をつくっていききたい。

小中学校の再編は勝山市だけが先行しているのではないかという意見について、少子高齢化に対応したしっかりした計画をつくっていくためには、あり方検討委員会の報告の中にも出ているが、小中学校の再編に関することについては、やはり、この地区座談会の中でしっかりとお話をしていかなければならないということで重要なテーマとして取り上げさせてもらっている。

市町村合併の時にも各地区3～4回の座談会に回り、このまちをどのようにしていくかということで、まちのかたちを皆さんとともに話し合った。そして従来の勝山市を小さくいけれどもしっかり守っていこうということで単独市を選択したが、これは間違いではなかったと思っている。今回のまちづくり計画をつくるのも、こういったように行政と市民が双方向で顔が見える形で議論できるまちの大きさ、コミュニティーのあり方というのは決して間違いではないので、しっかり議論ができるという中でこのようにテーブルに乗せているということもご理解いただきたい。

エコミュージアムは、環境面が大事である。またエコノミーを目指そうという考えもある。もうひとつの側面として地域の遺産を磨きながら地域の誇りを持ってまちづくりを進めていこうということがある。その中にはいろんな遺産巡りの中で世代間の交流が中心となって地域が磨かれている。そういった中、小中学校のコミュニティーは大切だということで、いただいているさまざまなご意見・ご提案を調整しながらどのようにまとめていくかということである。

今後、校区别座談会、産別座談会、市長への手紙などを通じて、この小さなまちの良さを活かしながら、みなさんのご意見がしっかりと反映できる計画をつくっていききたい。

以上